

燃える母校愛で
法政大学と法学部の
さらなる発展を!
第44号 2023(令和5)年6月1日

法政大学 法学部同窓会報

法政大学法学部同窓会
池上 貞純(同窓会会長)
岸 正比古(広報委員長)
〒104-0061
東京都中央区銀座2-4-1
銀楽ビルディング3階
齊藤友嘉法律事務所
TEL 03-6271-0085
FAX 03-6271-0089
E-mail: t.saitoh@hosei-hogakubu-dosokai.jp

同窓会会長交代のご挨拶

法学部同窓会 会長 池上貞純



同窓会会長交代のご挨拶
令和5年3月の同窓会役員会・理事会のご指名により、金子征史前会長から会長職を引き継ぐこととなりました池上貞純(いけがみ さだずみ)と申します。1982年法学部法律学科の卒業です。

法政大学は、申すまでもなく、1880(明治13)年4月わが国最初の私立法律学校である「東京法学社」として創立され、140年余りの歴史と伝統を有し、法学部は、1920年の大学令による大学として認可された法政の根幹たる学部と言えます。そうした歴史と伝統を有する法学部の同窓会会長を務めさせて頂くことは、その責務の重さを感じると共に、身が引き締まる思いです。この緊張感を持って、法学部同窓会の皆様と力を合わせて同窓会活動を継続できるよう頑張らせて参ります。

令和5年度定期総会 ・懇親会のお知らせ

日時 令和5年7月15日(土)
午前11時00分から
【定期総会・講演会】
市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG601教室
【懇親会】
市ヶ谷キャンパス富士見ゲート棟3階「つどひ」
最寄り駅 JR市ヶ谷駅から徒歩10分、東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅、都営新宿線市ヶ谷駅から徒歩10分
定期総会 午前11時30分～
講演開始 午後0時00分～
懇親会 午後1時10分～
懇親会費 8000円
懇親会講師 高須順一/法政大学法科大学院法務研究科 法務研究科長
演題 「法科大学院と新司法試験の動向(仮題)」

*昨年度に引き続き、リアル出席とZOOMを利用したリモート出席のいずれかを選択できるハイブリッド方式により開催します。
*出欠通知の締切は7月7日(金)(必着)です。
ZOOM出席の方はメールアドレスに誤りがないようご注意ください。
また、次号より会報のメール配信を計画しておりますので、メールアドレスをお持ちの方で配信を希望される方およびZOOM出席の方はメールアドレスに誤りがないようご注意ください。

以上

同窓会の意義について
そもそも、同窓会は、年齢差を超えた同窓生間の親睦を深める場であり、お互いに刺激しあひ、啓発しあえる場でもあります。そして、同窓会で集めた寄付金を在学学生の支援に充てていく、寄付団体の側面も持ちまします。私も学生時代から同窓生からの恩恵を受けた人間の一人です。社会人生活において、終生の友

とも呼べる友人や人生の師匠とも言える大先輩にも出会え、人生を豊かに有意義に過ごせています。
また、人生の師匠と
は、ゼミの指導教授であった下森定元総長・名誉教授と、遠藤光男元最高裁判所判事、大島雄次元明治安田生命社長のお三方です。先輩方は、法政法学部の同窓生に惜しみなく支援をしてください。法学部同窓会の顧問でもありました。毎年、数回は私的な懇談会にも呼んで頂き、彼らから受けた示唆や、励まし、助言は私にとって、一生の宝物であり、現在でも人

生の道標になっています。皆さんにも、是非、法学部同窓会を介して、人生の友や師匠とも言える先輩方を見つけて、定期的に親睦を深め、学び合える経験をして貰いたいと思っています。
コロナ禍でも継続し、
人気急上昇の寄付講座
コロナ禍のこの3年間
は、法学部同窓会でも、その活動の多くは、中止・縮小を余儀なくされました。

来までの同窓会のかつての賑わいを復活させ、同窓生間の親睦を深め、在学生を支援していきたいと考えています。今回の7月の定期総会はその第一歩です。
既に、学生支援については、コロナ禍でも継続してきた寄付講座が逸早く大きく動き出しています。同講座は、法学部教授会のご要望を受けて創設され、法学部同窓生や民間企業の法務部門の責任者の方が講師となって頂き、企業内法務をテ

マに全14回の講義が組まれています。流石にコロナ禍では受講学生数は停滞していましたが、今年度の講座では、対面とオンライン参加者を合わせた参加学生数は過去最高の130名と急増しています。私も、先日、受講して来ましたが、多くの学生さんが熱心に聴講しており、講師方も学生の真剣な眼差しに感えるように、企業内法務の実態を個別具体的に成功事例から失敗事例まで織り交ぜながら説明してください、大変分かりやすく、興味深い内容となっています。また、法務部門への就活希望者向けにはアドバイス等もして下さい。おり、学生の皆さんのニーズにもあって、学生支援の実を大いに挙げています。と実感した次第です。

能していないと言わざるを得ません。今年度以降は、校友会の年度同窓会の法学部出身の方は、お誘い合わせの上是非、法学部同窓会のイベントにも参加して、中堅層の法学部出身の先輩方との親睦を深めて下さい。参加費を頂戴すれば、この中に懇親会費用と年度会員費用が含まれています。是非、ご検討ください。皆さんにお会いすることを楽しみにしています。

現在の法学部同窓会は、1,500名近い終身・年度会員を要していますが、2014年に一般社団法人化した新校友会が発足し、2013年度以降今年度までの卒業生は卒業と同時に校友会の終身会員となる仕組みとなっていることから、学部同窓会に新規に入会する若手会員はほとんどおらず、40歳代以上の会員が多数を占めるに至っています。これでは、年齢差を超えた同窓生間の親睦を深める場として機

能していかないと言わざるを得ません。今年度以降は、校友会の年度同窓会の法学部出身の方は、お誘い合わせの上是非、法学部同窓会のイベントにも参加して、中堅層の法学部出身の先輩方との親睦を深めて下さい。参加費を頂戴すれば、この中に懇親会費用と年度会員費用が含まれています。是非、ご検討ください。皆さんにお会いすることを楽しみにしています。

プロフィール
1982年法学部法律学科卒業
元日本銀行勤務、法政大学評議員、法学部同窓会理事、一般財団法人法政大学校友会理事、法学部同窓会監事、法政大学専攻委員会委員、法政大学専門職大学院教育課程連携協議会委員、法学部同窓会会長
日本銀行入行後、中央銀行業務のデジタル化推進プロジェクトの取り纏めとして多数関与。特に、大型プロジェクトとしては、金融データベースの構築、金融機関決済システムプログラム検査の構築、金融機関電算センター(EDP)検査の構築、新電算センター新築と増築プロジェクト、新現金センター新築プロジェクト等。その他には、金融機関検査官、地域金融機関監督官、ファシリテーター、危機管理(BCP)責任者、人事管理責任者、電算センター運行管理責任者等。
専門分野は、電算システム論、危機管理論、貨幣論、戦略的ファシリテーターマネジメント論、街づくり・中心市街地活性化論。

中にあります。人口減少は、生産年齢人口(15〜64歳)の減少から国力の衰退要因と言われており、この対策として、AI・IT等を活用できる高度化人材の養成、優秀な女子労働者の再雇用、優秀な外国人労働者の受入等を進め、労働生産性を上昇させて、経済成長を図ることが急務だと考えられています。

こうした状況下、法政大学では、2019年に初めて入試時の実受験者数が四年制大学で全国トップとなり、2022年も全国トップとなつています。今のところは高い人気もあり、大学財政にも余裕がありますが、気を緩めることなく、社会的要請にも配慮した語学力や数理・データサイエンス、AIプログラムの応用段階までを身につけた学生の育成に向けて頑張ってもらいたいと思つています。また、同窓生には、リカレント通信教育センターや大学院の夜間開講プログラムなど活用されており、これらを活用して高度化人材にパワーアップして欲しいと願っています。法学部同窓会でも、寄付講座や講演会等を通じて、出来る限りの支援をしていきたいと考えていますので、今後とも同窓生の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

法学部同窓会の新会長誕生を お祝いし、新たなご発展を祈念する

法学部同窓会前会長 金子征史

1. わが法学部同窓会は、1998(平成10)年9月11日、アルカディア市ヶ谷において創立総会を開催し、会長に原島栄一、副会長に金子征史(以後私)、黒田多加恵、事務局長に高山征治郎を選任し、新たにスタートしました。しかし私は、1999(平成11)年春に法政大学常務理事に選任されたため、副会長を辞任しました。そして6年間わたる大学の常務理事の職務を無事修了し、一初代会長が健康上の理由で退任された後に、当時の法学部同窓会山崎事務局長から二代目の会長選定の相談を受け、私は、安田生命大島雄次会長と遠藤光男弁護士のごちらかにお願ひしてみました。進言しました。しかし同二人は高齢を理由に辞退され、お二人の相談の結果、大学の常務理事

を退任した私がするべきだとの意見で、結局私が会長を引き受けることになりました。

2. こうして2006(平成18)年7月に私は第2代会長に就任し、17年間に亘り会長を継続してまいりました。そればかりか1998年の同窓会立ち上げの時には法学部部長であった私は、高山初代事務局長からの熱心なご相談を受けて法学部教授会としても同窓会の創設を了承する形をとりました。そして法学部長のま本会の副会長に就任し、今日まで文字通り法学部同窓会とともに歩んでまいりました(この間、1999年より2005年まで大学の常務理事を務めたため同窓会役員は退任しますが、毎年の定時総会には大学総務部担当理事としてご挨拶をさせて頂いてきました)。

3. この間、会長としての職務について、若干の疑問点がありました。若手の疑念点がありましたが、私自身の多忙さの中で具体的にその疑問点解決に踏み込むことをしませんでした。それは会長と理事長との二本立て方式(2004年規約改正)規約上は、本会を代表し、その業務を総理する(15条1項)会長と、業務の執行に関する重要事項について議決し、業務を執行する(理事会の「業務を掌理」する(15条2項)理事長と定められていたが、実態は、会長は理事会に出席する義務もなく、面倒な事項は理事会が執行するので、会長は総会の時にご挨拶いただければよいと説明されてきました。外から見れば、よくわかりにくい仕組みで、かなりの方々から、金子さんが会長とは知りませんでした、理事長が代表者だと思っていました、といった声でした。遠藤先生も大島会長も「二本立て方式」は分かりにくいので、精査する必要があるということをよく言われました。

要するに「二本立て方式」がそろそろ限界にきていたことだけは確かでした。理事会内部でも、2017年頃から、五明公明理事長や齊藤事務局長からもこの点について色々相談を受けていました。しかし現実的には理事長と会長が在職するなかでの「一本化」は議論も微妙なものになるようでした。こうしたなかで、2019年の私の誕生日(4月19日)が近づき、私も後期高齢者となるため、法学部同窓会執行部の若返りと「一本化」促進を理由に、2月12日に、理事全員に会長ご辞意を伝えました。その効果が多少ともあったのか、理事会内部では、会長「一本化」の制度化と具体的新会長選出の動きが急速に広がり、一気に若返りを基軸にした変革が動き始めました。

新会長の名前もようやく表面に出され、二本立て方式から会長一本化への過渡期にあたるため事情をよく知る理事長職にあった五明公明氏を充てることでもとめられました。法学部同窓会関係者は私を含めてようやく安堵し、正式決定を待つのみということになりました。

先見性と寄付講座 遠方理事 市川喜通

1. 恩師について 内山尚三教授にはゼミ生に勉強だけでなく、先生に通じて社会に出ても対応できる人材育成をされた。お酒をこよなく愛された。楽しいお酒を飲みながらお話を聞かせて頂いた。法政大学をこよなく愛されて、学内・学外を問わず幅広い人脈を築かれた。

須永 醇教授にはゼミで民法の判例を題材にして、法律的なものの考え方を伝授して頂きました。中禅寺湖畔にある大学の施設では、ゼミ生の議論をじっくり聞きながら、論点を的確に指摘される。高齢者が増えていく中で、成人後見人制度について尽力された先見性には、感心させられておりました。

2. 寄付講座について 寄付講座は、2017年度秋学期から、法学部同窓会がその費用を法政大学に寄付し、「企業・団体法務部の実務」をテーマとする授業を学生に提供するようになりました。在学中に、卒業後の進路の一つとして企業・団体の法務に関心を持って貰いたい、法律実務の勉強を深めて貰う良い機会となっております。

私の徒然「コロナ禍を乗り越えて」

この三年半近くいろいろな不自由な日々を過ごしてきたコロナ禍でしたが、五月八日に感染症五類に引き下げられ、以前の生活に戻るような兆しも見えてきました。

そんな日々を振り返ってみるに、まず喜寿を過ぎ、私の体調にもいろいろと変化が生じてきております。昨日できたことが今日は思うように動けず、書き物をしていてもあれ？これは言べんだったか、人べんだったかと思ひます。

令和5年度第1回理事會(4月21日開催)

令和5年度の定期総会の開催日程、要領等について審議された結果、次のように決定しました。

懇親會：原則開催することとし、ただし、新型コロナウイルス感染症状況に留意し、必要に応じた処置をすることとする。

講演會：実施することとし、講師には、法政大学法科大学院教授の高須順一弁護士に、法科大学院や新司法試験の動向をテーマとして要請する。

またまた、新型コロナウイルスの影響が不透明な状況ではありますが、定期総会を平常通りに開催することは、会員の皆様が多くが待ち望んでおられると存じますので、鋭意その準備に邁進して

た。ところが、それから間もない3月1日、五明氏は、所用で移動中の電車の中で倒れ、病院に運ばれまれましたがそのまゝ逝去する悲劇に遭遇しました。

4. 法学部同窓会の関係者はあまりの出来事にたゞ嘔然とするだけで、五明氏の葬儀が全て終わって後に対応に気づき、あわてて対策が議論されました。そこでの結論は、早急に五明氏に代わる候補者を出せる状況にないこと、しばらくの間は会長職の辞意を表明した金子に会長としてごまかしてもらい、次の新会長候補者を模索するというものでした。法学部同窓会の状況をよく知る私としては、突き放すこともできず、やむを得ず自分の方針を変え、結局17年間の会長職を務めることになりました。

幸いに、私よりもずっと若い池上貞純氏が新会長に就任することになった新体制がスタートすることになりました。またコロナ禍の影響が残るためもうしばらくは、会務に差しさわりのあるかもしれませんが、若返りを図るには良いチャンスかもしれません。是非とも頑張ってください。法学部同窓会関係者は私を含めてようやく安堵し、正式決定を待つのみということになりました。

池上会長も最近講座を聴かれ、内容が充実し、多数の学生が参加されていることを理事會に報告されました。法学部同窓会としても、寄付講座を通じて在学生の勉学をサポートしていくことが重要だと思います。

理事 大崎光雄

「お便りを待っています。」「お便りを待っています。」などの返事にこちらもまた元気をいただきました。今後も少しでも絆を深め、元気印を送受信していきたいと思ひます。

今春には、だいぶ制限も意識も緩和されてきました。人と人の触れ合いや小旅行など自由な外出が大好きな私も四月に春の京都へ友人数人と行って参りました。『生命の洗濯』の楽しいひと時を過ごせました。

このように自由に外出できて、いろいろな人々と触れ合い、楽しい老後の心から願っています。もちろん我々年配者は自らを守るためにもしっかりと感染対策をして元気に頑張ってください。お健やかに。

理事會だよ 事務局 齊藤友嘉

〇 新型コロナウィルス対応については、ようやく出口が見えてきたように思われますが、会員の皆様におかれましては、ご清祥のごとく拝察申し上げます。

令和5年度に入り、理事會の開催ペースは何とか平常通りに回復しつつありますが、ハイブリッド方式を取り入れるなどして、できるだけ多くの理事にご参加頂けるよう努めて参りたいと考えて

おります。

〇 令和4年度第4回理事會(3月28日開催)

令和5・6年度の役員選任について審議され、新会長に池上貞純氏が選任されました。副会長、会計、理事、監事のメンバーには大幅な変動はなく、ほとんどのメンバーが再任されました。

池上新会長は昭和57年3月卒で、法学部同窓会の会長としては世代交代が相当進みましたので、今後、会務運営のあり方について改革が推進されるのではないかと期待されます。

令和5年度第1回理事會(4月21日開催)

令和5年度の定期総会の開催日程、要領等について審議された結果、次のように決定しました。

懇親會：原則開催することとし、ただし、新型コロナウイルス感染症状況に留意し、必要に応じた処置をすることとする。



金子征史氏

参ります。以上

令和4年度定期総会報告

令和4年度定期総会は、令和4年10月29日(土)午後1時から、法政大学大内山校舎Y403教室において、ハイブリッド方式によって開催されました。実出席者は18名、Zoom出席者は約10名でした。

(開会)

定刻に司会の蜂谷和弘理事によって開会されました。開会に先立ち物故者への黙祷を捧げました。

(会長挨拶)

金子征史会長から挨拶がなされました。

(法学部長挨拶)

榎川泰史法学部長から、総会会場においてご挨拶を頂きました。法政大学では、依然として新型コロナウイルスの影響下にあるものの、対面の行事も次第に復活しつつあるとのことでした。

(議長選出)

会則第37条により、金子征史会長が議長に選出されました。

議事録署名者には、佐々川直幸理事が指名されました。

(議題・報告)

始めに、齊藤友嘉事務局長から令和3年(2021年)度活動報告がなされました。

続いて、大塚孝子財務室長から令和3年(2021年)度決算報告がな

21年度決算報告がなされました。その後、猪山雄治監事から、決算書及び財産目録は適正に作成され、かつ記載内容は適正である旨の監査報告がなされました。

令和4年度活動報告

1 各種行事の企画・実施について
令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続き、教授会執行部・学部事務課職員との交流、卒業生祝賀会、法学部ゼミ生との交流(ゼミ対抗野球大会への協賛等)、東京六大学野球観戦、健康ハイキング、旅行、各種文化的行

令和4年度秋学期に6

期目の寄付講座を開講しました。授業は、原則対面方式により、一部ハイブリッド方式によって実施されました。

広報活動について

会報は、第43号を令和4年9月26日に発行しました。

寄付活動の推進について

寄付金収入は、470,023円でした。

会計報告

財務室長 大塚孝子
令和4年度決算は、監査を経て、今年度開催の理事会において承認されました。

令和4年度決算は、決

算書記載のとおり、収入が約164万円、支出が約159万円となりました。収入については、予算に比して47万円程度少なく、一方支出は、予算に比して205万円程度少なかつたため、次期繰越金が約266万円程度

確保できました。

この理由は、新型コロナウイルス感染症により、総会をハイブリッド方式で行い懇親会を開かなかつたこと、卒業生祝賀会等を中止したこと、会報が令和4年分として一回のみの発行になつたことが大きく影響しています。

令和4年度会費の納入

状況は、年会費が174名で、68万円(入会3年目までの会員は、年会費2,000円)、終身会費が3名で24万円でした。予算では300名の会員の年会費を予定していましたが、それに比して、大変少ない数字となっております。

令和4年度に集まった寄付金は、470,023円となりました。皆さんの寄付を頂戴し、ありがとうございます。

令和4年度は、法学部同窓会が幹事同窓会となりました。
令和4年9月19日(木)、令和5年1月19日(木)、3月4日(土)に理事会(合計3回)を

法学部同窓会財務室長 弁護士 大塚孝子
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-15
市ヶ谷法曹ビル809 大塚孝子法律事務所
電話 03-33262171 41
昭和50年3月卒業

令和4年度決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

Table with columns: 科目, 4年度予算額, 4年度実績額, 増減(B-A), 備考. Includes sections for 一般会計, 特別積立金, and 繰越金.

特別会計

Table with columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額, 増減(B-A). Includes sections for 終身会費基金, 特定事業基金, 寄付講座会計.

財産目録 (令和5年3月31日現在)

(単位円)

I 一般会計

1 預貯金

Table with 6 columns: 番号, 金融機関・支店名等, 記号, 口座番号等, 種別, 残高, 備考. Rows include みずほ銀行東京中央支店, ゆうちょ銀行振替口座, みずほ銀行東京中央支店.

2 現金

Table with 5 columns: 番号, 現金①, 現金②, 管理・保管先, 残高, 備考. Rows include 現金① (財務室), 現金② (事務局).

4 負債 なし

II 特別会計

1 終身会費基金

Table with 6 columns: 番号, 金融機関・支店名等, 記号, 口座番号等, 種別, 残高, 備考. Row includes みずほ銀行東京中央支店.

2 特定事業基金

Table with 6 columns: 番号, 金融機関・支店名等, 記号, 口座番号等, 種別, 残高, 備考. Row includes ゆうちょ銀行.

3 寄付講座

Table with 6 columns: 番号, 金融機関・支店名等, 記号, 口座番号等, 種別, 残高, 備考. Row includes 三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店.

法学部同窓会寄付講座2023年度担当者一覧

Table with 2 columns: 回数, 担当者 (敬称略). Lists speakers for various lecture sessions from 第1回 to 第14回.

法学同窓会寄付講座の近況

事務局長 齊藤友嘉

1 法学部同窓会寄付講座は、2017年度秋季(9月〜1月)から開講されました。開講費用は、法学部同窓会が1期分60万円を法政大学に寄付することによって賄われ(その後1期分40万円に減額されています)、講師(ゲストスピーカー)も法学部同窓会が派遣する形になっております。受講生は、法政大学法学部1〜4年生が対象です。企業・団体法務部の実務をテーマとする法律学特殊講義として実施され、受講者には専門科目2単位が付与されます。担当教授は武生昌士(株)総務部長代理(株)サンリオ総務部長(株)サイバー・コミュニケーションズ法務担当(株)日鉄鉱業(株)常務取締役(株)太陽誘電(株)法務部次長(株)日本曹達(株)総務グループ法務チーム主幹(株)カゴメ(株)法務グループ課長(株)双日(株)法務部長(株)法学部同窓会理事(株)横浜市瀬谷区課長補佐(株)日本銀行横浜支店総務課企画役補佐

といった方々にお願いしました。その後、講師の一部交代があり、現在に至っています。3 受講者は、各期約50〜60名程度で推移してきましたが、2023年度春季期においては、受講者数が130名強に急増しました。寄付講座は、2023年度で第7期目となりますが、実績の蓄積とともに授業の人氣が高まってきたことが伺えます。寄付講座は、学生に対する勉学支援が基本的な目的であり、受講者数が伸長することは、非常に喜ばしい現象です。4 しかし、寄付講座を



2023年4月17日第3回寄付講座 (ゲストスピーカー2回目)

継続していくためには、今後年間40万円の寄付を維持して行く必要があり、法学部同窓会がこのように固定的支出を維持して行くことは決して容易ではありません。会費収入を十分確保するべきことはもちろんですが、学生の勉学支援に寄与することをご理解頂き、会員の皆様から、是非寄付をお寄せ頂けまじます。また、自薦他薦を問わず、講師の情報もお寄せ頂ければ誠に有り難く存じます。以上

Bottom section containing contact information for various individuals and organizations, including names like 市川喜通, 池上貞純, 小川清宣, 齊藤友嘉, and 田中義教, along with their respective addresses and phone numbers.